

2024~2025年度 地区スローガン

持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動  
Make Rotary Sustainable！ Learn together Act together

No.31

2024~2025年度クラブテーマ

ロータリーを楽しみ、人生をエンジョイ

例会日 毎週火曜日 12:30~13:30 例会場 勝山市市民交流センター 〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地  
TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760 <https://rid2650-pub.com/katsuyama/> Email:katsuyamarc@gmail.com  
■会長 斎藤清一郎 ■幹事 久保光子 編集発行・文責 公共イメージ委員会

### 第3069回 例会 (3月4日)

#### ●会長スピーチ

会長 斎藤 清一郎



時々、人工衛星や宇宙ステーションからの地球の映像を見たり、以前福岡から羽田へ向かう飛行機に乗った時、たまたま雲一つなかったの地上の様子が豆粒のように見えたことがありました。

ウクライナとロシア、イスラエルとパレスチナのガザ地区、その他世界のいたる所で紛争が起きています。

さっきの宇宙から見たらどうしてこんな狭い場所にいて仲良くできないのか悲しくなります。

あのトランプ大統領が世界最強の軍隊を動かすことができ、いつでも核ミサイルのスイッチを押せると思うととても怖いです。

#### ●幹事報告

幹事 久保 光子

○2月の理事役員会の議事録をご確認ください。

5月18日に「現新会長幹事会」を勝山クラブがホストとなり開催しますので予定を入れておいてください。

#### ●委員会報告

##### ●奉仕プロジェクト委員会

笠松 誠一

3月3日、京都で開催された「職業奉仕講演会」に参加しました。その日はえち鉄の落石事故があり、急遽自家用車で福井駅に向かうことになりました。

講演会の内容はまた報告させていただきます。

#### ●出席報告

上山 弥一

3月4日	欠席4名	80.95%
2月25日	欠席3名	85.71%

#### ●ニコニコ報告

山内 政司

会員誕生	梅田・滝川会員
伴侶誕生	淵上・久保・多田会員
結婚記念	山内・上山会員
無届欠席	山本泰司
早退	和田耕三



本日 プログラム	ゲスト卓話 永田泰山氏	3月18日 プログラム	ゲスト卓話 永田泰山氏	3月25日 プログラム	会員卓話 滝川会長エレクト	4月1日 プログラム	会員卓話 山内智子会員
-------------	----------------	----------------	----------------	----------------	------------------	---------------	----------------

会員卓話

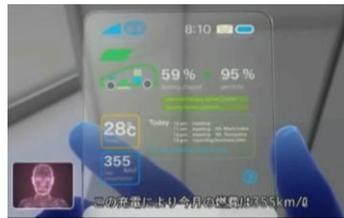
自動車業界の現状

和田 達也 会員



私は卓話が苦手で、なぜかという趣味もなく面白いこともないので何を話そうかいつも迷います。結局仕事で携わる自動車の事しかないので私を知りえる事で時間を頂きたいと思えます。

近未来カーの映像を見てもらいました、この中に見える自動車の大きな進化がわかると思います。一番はAIで車を制御していることです。



皆さんもご存じのように、自動車はBEV(バッテリー式電気自動車)、HEV(ハイブリット電気自動車)、PHEV(プラグインハイブリット電気自動車)、FCEV(水素燃料電気自動車)へシフトしていきます。

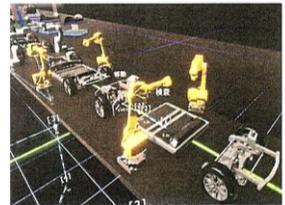
製造方法もギガキャストもアルミダイキャストと言う一体成型でフレームは作られ、自走しながら組み立てられるオール自動化により人が工場の中になくなるようになっていきます。



デジタルと相性の良い技術



デジタルでモノづくり検討



私達60歳を過ぎた者には理解が出来ず戸惑う日々です。今まで生きてきた過去を否定されているようです。しかし、どんな時代が来てもロータリーの4つのテストを基本に進んで行きたいです。

走行のためのバッテリーの進化はすさまじく、2026年には次世代電池(パフォーマンス版)航続距離1000KMを実現を目指し角形電池を開発中です。

次に次世代電池(普及版)良質廉価リン酸鉄リチウムを実用化が現在では現実的といわれています。

アクアなどに採用し、走行20% UP、コスト40%減、急速充電30分以内を目指しています。

そしてバイポーラ型リチウムイオン電池(ハイパフォーマンス版)バイポーラ構造にハイニッケル正極を組み合わせ、上記よりまだ航続距離10% UP、コスト10%減、急速充電20分以内を実現しようとしています。

そしてAIにて車を制御する時代

この技術は自動車の進歩と言うより、コンピューター制御、ソフト開発、半導体などの電子部品の進歩によって出来る事なので、一企業で出来る時代ではないといわれ、自動車産業は関連産業(日本自動車関連人口)などが変革の時代に入り日々戸惑っているのが今の現状だと思えます。

